中国人被爆者(故)徐立伝さんのお孫さんが来日
王小軍さんのお話を聞く会

日　時：１０月２０日（土）午後２時～４時半
会　場：西区民文化センター２階大会議室Ａ
（広島市西区横川新町６番１号　ＪＲ横川駅南口より徒歩２分）
参加費：５００円

（故）徐立伝さん

徐立伝さんは、１９２２年に中国山東省青島市で生まれました。
１９４４年、国民党軍の兵士として日本軍と戦闘し捕虜になりました。山東省済南市に設置された収容所「新華院」を経て、広島県安芸太田町の安野発電所建設工事に強制連行されました。
西松組（現在の西松建設）のもと、わずかな食糧でトンネル掘りの過酷な労働に従事させられました。
中国人に中国人を支配・管理させる分断政策の中で、１９４５年７月、親日派の中国人大隊長と三班長に対する怒りが爆発し、収容所内で二人を殴り殺した事件に巻き込まれて逮捕されました。広島市内に送られ、同年８月６日、原爆により被爆しました。
１９９２年５月、広島からの調査団に対し、「半地下の独房で被爆した」と証言しました。歯茎がんに冒され余命１年と診断されていた徐さんは、「日本のお医者さんに診てもらいたい」と日本での治療を希望しましたが、願いはかなわず、同年７月２１日に死去しました。

徐立伝さんの証言によって、徐さんと一緒に十数人が被爆して帰国したことが判明し、呂学文さんたちの被爆者健康手帳の取得につながりました。また、１９９２年の調査は、被爆者調査、強制連行の実態解明、西松建設との裁判、和解へと続く、その後の活動の起点となりました。
９２年５月の訪中調査の映像を鑑賞したあと、この調査団に参加して徐さんの被爆証言に立ち会った柴田和広さんと、徐さん被爆の裏付け取材に奔走した佐田尾信作さんのお話を交えて、徐立伝さんのお孫さんである王小軍さんのお話を聞く会を開催いたします。
初来日の王小軍さんとの交流を通じて、改めて安野の歴史を振り返り、日中友好への更なる歩みを確かめたいと思います。ふるってご参加ください。

≪プログラム≫
映像鑑賞（２０分）
「地底の響き――１９９２年訪中調査報告」
発　言
柴田和広さん（ＲＣＣ報道部記者）
「１９９２年５月　中国・青島」
佐田尾信作さん（中国新聞社論説主幹）
「徐立伝さん被爆の裏付け取材」
王小軍さん（山東省青島市）
「祖父・徐立伝のこと」

主　催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会
＜連絡先＞　０８０－３８８０－８３４０（川原）